

5年生の授業創造プラン（平成28年度）

日野市立日野第五小学校

	5年生の実態と課題	授業創造プラン	実践記録	成果と課題
国語	<p>【話す・聞く】 ○ペアやグループの話し合いでは、自分の考えを相手にしっかりと話せる児童が多い。 ●言いたいことを端的に分かりやすく話すことが苦手な児童が2割程度いる。 ●話を最後まで聞くことに課題が見られる。</p> <p>【書く】 ○初発の感想や報告書などの短い文章でまとめることができる。 ●読み手に伝わりやすい文章の書き方の工夫を指導する必要がある。 ●作文や手紙書きなど、長い文章を書くことが苦手な児童が多い。</p> <p>【読む】 ○物語文においては場面の様子や登場人物の気持ちを豊かに想像することができる。</p> <p>【言語】 ●漢字の定着率の個人差が大きい。 ●日常の授業や作文などで活用できていない児童がいる。</p>	<p>【話す・聞く】 ・少人数での話し合いの機会を増やし、主体的に話し合いたりする経験を多く積ませる。 ・朝のスピーチの活動を継続して行い、発表の際には、考えを文章にまとめて整理してから発表するようにさせる。 ・話している人の方を見て目を見て最後まで話を聞く習慣を身に付けさせる。</p> <p>【書く】 ・読み手に伝わるように文章を書くことを意識させるようにする。長い文章を書くことに自信がもてない児童には、質問をして答える活動などを通して、短い文章を組み合わせで長文になるように工夫をする。五感で感じたことを具体的に思い出させ文章に加えさせることで豊かな表現力をつける。</p> <p>【読む】 ・説明文では文章構成図などを用いて視覚的にも文章の組み立てをつかめるようにする。 ・物語文では、気持ちを込めた読み方ができるように工夫して音読させたり、想像したこととの根拠になる叙述を確かめたりしながら読んでいけるようにする。</p> <p>【言語】 ・作文や手紙、感想などを書く活動では、習得した漢字を使えるよう、個別に指導をしていく。また、授業において説明文や物語文に出てくる漢字の使われ方、意味、慣用句、言語表現など意識できるようサイドラインを引くようにする。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習の漢字や言語を復習させ定着につなげる。</p>	<p>【話す・聞く】 ・感想や書いた原稿をペアやグループで読み合うことを通じて、主体的に話し合いたりする場面を多設した。 ・朝のスピーチでは、スピーチ原稿をもとに話す活動を継続して行った。</p> <p>【書く】 ・「分かりやすく伝える」の学習を中心に、相手意識を明確にして、言葉を選んだり一文を短くしたりするように意識させた。</p> <p>【読む】 ・説明文の学習では、文章構成図を用いて文章の組み立てをつかめるようにした。 ・物語文では、家庭学習で繰り返し音読させた。また、教科書の文章にサイドラインを引かせるなど、場面の様子や登場人物の気持ちを叙述をもとに想像できるようにした。</p> <p>【言語】 ・習得した漢字をできるように、個別指導を行った。また、和語・漢語・外来語の学習では、国語辞典を活用して漢字への興味を広げた。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習の漢字や言語を復習させた。</p>	<p>【話す・聞く】 ・ペアやグループでの交流を通して、自分の考えを相手に積極的に話し合い、友達への考えに興味をもって聞いたりすることができた。 ・スピーチを繰り返し行うことで、なるべく短い文で分かりやすく話そうとする児童が増えた。 ・話の途中で話してしまう児童がまだ見られるため、指導を継続していく。</p> <p>【書く】 ・「一年生に伝える」などの相手意識をもって文章を書かせたことで、読み手に伝わるように書くようとする意識を高めることができた。 ・長い文章を書くことが苦手な児童が数名見られるため、個別の支援を引き続き行う。</p> <p>【読む】 ・音読やサイドラインを引く活動などを通して、叙述をもとに場面の様子や登場人物の気持ちを想像することができた。</p> <p>【言語】 ・漢字の定着率には個人差がまだ見られるため、個別の支援を引き続き行う。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習事項の定着を図ることができた。</p>
	<p>【思考・判断・表現】 ○国土や地形に適した考えをもつことができる児童が多い。 ●社会的な視点で事象を捉えられない児童がいる。</p> <p>【資料活用】 ○グラフ、資料や地図の読み取りに興味を示す児童が多い。 ●グラフ、資料や地図などを比較しながら意図を読み取ったり、必要な情報を正確に読み取ったりすることに自信がもてない児童がいる。</p> <p>【知識・理解】 ○国土の特徴と人々との生活との関係を理解している児童が多い。 ●都道府県名を覚えていない児童が半数以上いる。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ・社会的な見方や考え方ができるように、ペア・グループ・全体で話し合いながら学習を進め、そこから出た課題や視点を元に、資料の読み取りに取り組んでいく。</p> <p>【資料活用】 ・適切なグラフや表を選択して読み取ることができるよう、比較させたり、そのグラフや表が表していることを友達に伝えたりする活動を取り入れる。</p> <p>【知識・理解】 ・各都道府県の特徴や場所を問うクイズをしたり都道府県テストを行ったりして定着を図る。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習の内容を個別に復習させ定着につなげる。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ・自分で考えたことをペアやグループで話し合う活動を多く取り入れた。また、全体で共有して資料の読み取りを行った。</p> <p>【資料活用】 ・授業の導入でグラフや表を提示し比較させたり、気付いたことを友達に伝えたりする活動を多く取り入れた。</p> <p>【知識・理解】 ・1学期に日本地図のクイズやテストを行った。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習の内容を個別に復習させた。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ・ペアやグループで話し合う活動を積極的に取り入れたことで、社会的な見方を共有することができた。</p> <p>【資料活用】 ・グラフや表などの資料を積極的に提示したことで、資料を比較したり考察したことを友達に伝えたりすることができた。</p> <p>【知識・理解】 ・都道府県名を確実に覚えることができていない児童がまだ見られるため、指導を継続していく。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習の内容の定着を図ることができた。</p>
	<p>【数学的な考え方】 ○既習事項を使って問題を解き、自分の考えを説明することができる児童がいる。 ●自分の考えを書いたり、図や数直線などを使って表したりすることに自信がもてない児童がいる。また、自分の考えは書けても説明することに自信がもてない児童がいる。</p> <p>【技能】 ●分度器やコンパス、三角定規などの使い方を習得できていない児童が数名いる。</p> <p>【知識・理解】 ○四則計算の定着率は、全体的に高い。 ●小数のかけ算やわり算において、小数点の処理の仕方を理解していない児童がいる。</p>	<p>【数学的な考え方】 ・既習事項を使って全員が参加できる課題を提示し、「できそうだ」「解きたい」「考えたい」と思わせるような授業の導入を工夫する。 ・より多くの児童に自分の考えを図や言葉で説明する機会を設定する。図から友達のことを読み取ったり、友達と言いたいことを言い換えさせたりする。 ・友達の意見を共有していけるように、ICTを適宜活用していく。</p> <p>【技能】 ・定規やコンパスを使う活動を繰り返し行うことで正しい使い方を定着できるようにする。</p> <p>【知識・理解】 ・ただ計算させるのではなく、計算の仕組みを理解し、小数点の位置がどうなるのかを考えさせる授業を展開していく。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、確実に計算することができるようにする。</p>	<p>【数学的な考え方】 ・授業の導入で、既習事項を使って全員が参加できる課題を提示した。</p> <p>・自分の考えを式、言葉、図などで表現させ、互いの考えをペアやグループで説明し合う活動を積極的に取り入れた。また、友達の式や図を読む活動も意識して取り入れた。</p> <p>・ICTを活用して、友達の考えを共有できるようにした。</p> <p>【技能】 ・多角形の学習において、コンパスや分度器の正しい使い方を復習し、繰り返し作図させた。</p> <p>【知識・理解】 ・文章題に取り組む中で、小数の足し算、引き算、かけ算、わり算の仕方を復習し、答えの数値から小数点の位置を考えるなどの活動を取り入れた。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習事項の定着を図った。</p>	<p>【数学的な考え方】 ・導入で全員が参加できる課題を提示したことで、児童が既習事項を使って意図的に問題を解くことができた。 ・互いの考えをペアやグループで説明し合ったり友達同士で教え合ったりする活動を積極的に取り入れたことで、算数が苦手な児童も自信をもって考えを伝えることができた。</p> <p>【技能】 ・図形の作図を繰り返し行い、苦手な児童には個別に指導したことで、ほぼ全員が道具の使い方を理解することができた。</p> <p>【知識・理解】 ・小数の計算が苦手な児童がまだ見られるため、引き続き個別に指導をしていく。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習事項の定着を図ることができた。</p>
	<p>【科学的な思考・表現】 ○観察や実験を通して、規則性を見つけ、視点を決めて比較するために、科学的なものを見方や考え方をしている児童がいる。 ●予想に対する考察や問題に対する結論を分けて書くことや、結論を自分の言葉でまとめることが難しい児童がいる。</p> <p>【観察・実験の技能】 ○自然の事物や現象を観察し、計画的に実験を実施している児童が多い。 ●観察・実験の過程や結果を的確に記録することが苦手な児童がいる。</p> <p>【知識・理解】 ○自然の事物・現象の性質や規則性、相互関係など、実感を持って理解している児童がいる。 ●科学的な言葉や概念について、十分に捉えている児童が少ない。</p>	<p>【科学的な思考・表現】 ・問題に正対した予想や仮説をもち、それを表現できるようにする。また、結論を分かりやすく表現するために、絵や図を用いて説明する力を高めていく。 ・予想を立てた理由や実験結果から分かったことをまとめる時間を確保する。また、考察は予想に、結論は問題に対応させて書くことを意識できるようにする。</p> <p>【観察・実験の技能】 ・観察・実験の結果の処理を正確に行うために条件制御など、実験のポイントに着目をして、正確に記録できるようにする。</p> <p>【知識・理解】 ・実物を観察したり、拡大写真や特徴がわかる動画を放映することなど、ICTを活用して、さらに理解の定着を促していく。 ・学習内容を定着させるよう、単元終了後には「東京ベーンシック・ドリル」などを活用し、科学的な言葉や概念についての定着を図っていく。</p>	<p>【科学的な思考・表現】 ・ノートやワークシートに自分の考えをまとめる際に、文章で書くだけでなく、絵や図に表すことで、自分の意見を整理させるようにした。 ・NHKの放送教材を活用することで、課題となる事象を全体で共有できるよう手立てを行った。</p> <p>【観察・実験の技能】 ・可能な限りどの児童も観察や実験を行うことができるよう、実験器具などを数多く準備し、実験回数を増やすことで技能の向上を図った。 ・観察では、どの部分を観察するのか、実験では何を調べるのかを明確にしてから活動に取り組みせるようにした。</p> <p>【知識・理解】 ・可能な限り実物を準備するとともに、ICTを活用することで、児童が新たな知識を獲得できるようにした。 ・単元の終わりに学習のまとめとして、「東京ベーンシック・ドリル」などを活用し、知識・理解の定着を図った。</p>	<p>【科学的な思考・表現】 ○ペアやグループで話し合いをする前に、自分の考えをノートやワークシートに書いたため、自分の考えを言語で表現する児童が増えた。 ●自分の考えをワークシートなどにまとめることが難しい児童は、話し合い活動への参加度がやや低い傾向にあった。</p> <p>【観察・実験の技能】 ○第5学年で取り扱う、磁石、方位磁針、導線、充電式電池、モーター、電子天秤、メスシリンダー、ろうと、ホウ酸、ミョウバン、双眼顕微鏡等を複数回扱うことで、9割以上の児童が正しく扱うことができた。一人一人が複数回実験を繰り返すことができ、より正確に結果を求めることができた。 ●グループで行う実験では、実験の技能が高い児童だけが実験を行うことがあった。正確な結果を求めたためだったが、全員に確実な技能を身に付けさせることが課題である。</p> <p>【知識・理解】 ○「東京ベーンシック・ドリル」およびICTを活用することで、学習の定着を図るとともに新しい知識を獲得することができた。 ●「東京ベーンシック・ドリル」の活用により、理解度およびその定着度に差が見られる。今後も継続して、基礎・底本の定着を図っていく。</p>